「戦争はすべての人間の生命、健康、安全を損なうが、ウクライナに住む約300万人の障害のある人々（以下障害者）とその家族にとって、状況はより深刻です。長年障害のある難民の権利を擁護してきた障害者の一人として、私は安全な避難や人道支援を受けるための複数の障壁に直面しているウクライナの姉妹や兄弟について深く懸念しています。」と国際障害者同盟および欧州障害フォーラムのヤニス・ヴァルダカスタニス代表は述べました。さらに「戦争は、障害者の権利を含む人権侵害の原因となり得るものであり、直ちに終わらせなければなりません。一方、全ての関係者は、障害者の保護と安全を確保する国際的な義務を十分に尊重しなければなりません。」と付け加えました。

世界中の1100を超える障害者団体を代表する国際障害者同盟は、すべての関係当事者に、国際人道法および国際人権法の下での義務を尊重し、ウクライナの障害者の保護と安全を確保するよう呼びかけています。特に、ロシアとウクライナの両国が批准した国連[障害者権利条約](https://www.ohchr.org/en/hrbodies/crpd/pages/conventionrightspersonswithdisabilities.aspx)第11条と[国連安全保障理事会決議2475は](https://undocs.org/s/res/2475%282019%29)、全ての障害者の平等な保護と安全、および人道支援へのタイムリーでスムーズなアクセスを確保する明確で絶対不可侵な義務を定めています。

国際障害者同盟はまた、ウクライナへの援助提供に積極的に関与している国営企業や欧州連合を含む全ての人道支援団体に対し、[人道的行為における障害者の包摂に関するIASCガイドラインを](https://interagencystandingcommittee.org/iasc-task-team-inclusion-persons-disabilities-humanitarian-action/documents/iasc-guidelines)含む国際人道基準の履行を確保するよう要請します。ウクライナの状況に対処するために採択されたいかなる国際的な決定、決議、措置も、障害者に影響を与える決定への彼らの参加を容易にするよう、障害者を包括したものでなければなりません。

ウクライナ、特に東部地域は、2014年から人道的な緊急事態に陥っています。近年の情勢激化以前から、多くの障害者が人道支援や安全へのアクセスに困難を感じていました。2021年の[OCHAの報告書](https://www.humanitarianresponse.info/sites/www.humanitarianresponse.info/files/documents/files/hno_2021-eng_-_2021-02-09.pdf)では、当時ウクライナで人道支援を必要としていた総数のうち、13％が障害者であったと推定されています。現在、紛争が激化し、ロシア軍が駐留しているため、すべての障害者は命を失う高いリスクに直面し、安全な避難所やシェルター、人道支援にアクセスできない状況にあります。[ウクライナの障害者やその代表団体の話では](https://www.edf-feph.org/protection-and-safety-of-persons-with-disabilities-in-ukraine/)、彼らを取り巻く状況は「ひどいものだ。例えば、キエフの避難所はアクセスが悪いので、障害者はどこに行けばいいのかわからず、家にいることを余儀なくされている。」とのことです。

紛争が起こると、誰もが自分と家族の安全と健康を確保するため、安全な地域に急いで移動します。しかし、多くの障害者にとってそれは不可能なことです。避難計画は、アクセシブルな方法で設計されていないことが多いのです。障害者は地下鉄の駅や地下壕にたどり着くことができません。多くの場合、避難所は車いすで入ることも移動することもできません。緊急避難、避難所の場所、支援の求め方に関する情報は、アクセシブルなフォーマットで提供されていません。その結果、盲や弱視、ろうや難聴、そして盲ろうなど感覚に障害のある人々の多くは、制限された安全や利用可能な支援にアクセスする方法を理解することができません。知的障害のある人々や心理社会的障害のある人々に対するスティグマや無視は紛争時に増加し、避難の際に取り残されたり、暴力や虐待を受けたりするリスクが高くなります。

さらなるリスクに直面するグループもあります。障害のある女性や少女、子ども、高齢者、そして最近の紛争以前に国内避難民となった人々はそれぞれ、紛争中に悪化した複数の困難に直面しています。また、何千人もの障害のある子どもや大人たちが、見捨てられたり、深刻な過失のリスクに直面し、施設に閉じ込められています。

この侵略は国際的な非難を浴び、ウクライナへの支援と援助が約束されました。特に、この紛争を契機に、EUとその加盟国は危機に対処するために個別と全体の両面から行動を起こし、この地域はかつてないほどの変貌を遂げました。これらの行動に、障害者の権利とニーズが組み込まれることが極めて重要です。紛争地域の民間人への援助と支援に関わる全ての関係者が、障害者のニーズを理解し、対処すること、そして侵略に対する欧州の強力な対応は、人権を推進するという欧州の価値観を反映したものでなければなりません。

「我々は強力な国際標準を有します。世界の10億人を超える障害者の代表的な声として、私は状況に対処し、被害を受けた人々を支援するためにとられる措置は、国際規範に従って障害者の全てのグループの権利、包括（インクルージョン）、参加を完全に保証しなければならないことをすべての関係者に喚起したい。」と国際障害者同盟のウラジミール・クック事務局長は述べました。